

ふるさと 資料紹介

=92=

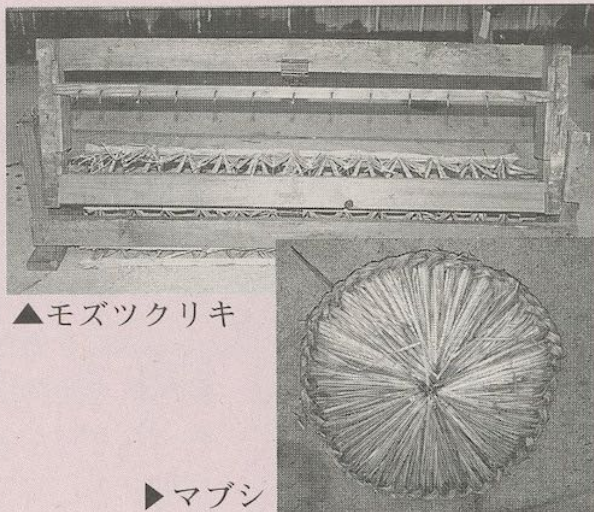
収集資料紹介ノート

ーモノに歴史ありー

(十一) モズツクリキ

蚕かいこが生育した後の作業には、大きく分けると上簇かんくわくと収繭しゅうらんがあります。上簇とは、十分に成長した蚕を「マブシ」に移動させることです。「マブシ」とは、蚕まゆに繭まゆを作らせる場所。養蚕の初期には、単純に稻わらを折り曲げて作りました。その後改良され、わらや縄で編んで木綿糸でしばるなどし、再利用が可能になりました。

写真は「マブシ」を製作する道具で、このあたりでは「モズツクリキ」と呼ばれるものです。この後の収繭作業にも多くの道具が必要になりますが、それらについてはまた別の機会にお話



しることにしましょう。

一年間連載しました養蚕についての資料紹介は、今回が最後です。今後は「文化の森」の展示資料を紹介する予定です。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。

(平成十一年一月分)

○ふすま下張り文書など十四点
(佐々木由美子さん／下米田町)

○大正時代の新聞など四点
(小藤武夫さん／深田町)

○英文タイプライター
(加藤定敏さん／中富町)

○土びななど六点

(福田修一さん／山之上町)
博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内／圃内四〇八)まで情報をお寄せください。